

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名（地区内集落名）	作成年月日	直近の更新年月日
小浜市	内外海地区 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 仏谷、泊、堅海、 甲ヶ崎、阿納、田鳥、 若狭、阿納尻 </div>	平成26年3月	令和3年3月

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	157	ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	85	ha
③地区内における60才以上の農業者の耕作面積の合計	76	ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	34	ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	1	ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計 (備考)	20	ha

2 対象地区の課題

<p>(1) 現状・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本地域は小浜市の北東部に位置し、海岸沿いの集落近辺に農地が形成され、背後の山沿いには梅畑が点在している。 ・農業は、兼業農家による水稻経営が中心である。農地は小区画で傾斜があり、水はけの悪い深田となっている箇所が多くあることから、耕作条件の改善が必要であり、現在、3集落（泊、堅海、仏谷）で基盤整備に向けた取り組みが進められている。 ・市街地への人の流出、農業従事者の高齢化や後継者不足、農業機械の更新を契機とした農業離れ等により、担い手不足が深刻な状況となっている。一方で近年、農事組合法人の設立や、若手が父親の経営を継承して認定新規就農者となるなど、地域の農地の受け皿作りが進みつつある。 ・当該地域は、田鳥集落の棚田など美しい農村風景が点在しているが、少子高齢化や人口減少により、地域資源の保全管理に支障が出てきている。 ・野生鳥獣による農作物被害が多く、その対策に相当の労力を奪われている。また獣害により、耕作意欲の減退を招いている。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

<p>(農) 千石の郷、認定農業者1名及び認定新規就農者1名を地域の中心経営体に位置付け、集落の農地を集積・集約化していく。</p>
--

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針（任意記載事項）

<p>(1) 農地の利用調整</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心経営体が計画的に経営規模を拡大することができるよう、農業委員会等の関係機関が連携して継続的に農地の利用調整に取り組む。
<p>(2) 農地等の地域資源管理の最適化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泊、堅海、仏谷区においては、多面的機能支払交付金の活動組織の体制や活動内容等に検討を加え、地域ぐるみで農地の保全等で取り組む体制を構築し、中心経営体と地域住民の連携による持続的な農業の発展に取り組む。 ・その他の集落においては、多面的機能支払交付金の活動組織等が中心となり、地域ぐるみで適切に農地を保全管理していく。
<p>(3) 鳥獣被害防止対策の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多面的機能支払交付金等を活用した侵入防止柵の適切な管理や、獣害対策に関係する研修会への参加及び誘因物の除去等、野生鳥獣による被害を未然に防止する取り組みを地域ぐるみで行う。

(参考) 中心経営体

属性	農業者 (氏名・名称)	現状		今後の農地の引受けの意向		
		経営作目	経営面積	経営作目	経営面積	農業を営む範囲
認農	(農) 千石の郷	水稲	18.0 ha	水稲	34.0 ha	堅海集落、泊集落、仏谷集落
認農	中野 利久夫・礼一	果樹、施設園芸、水稲	1.0 ha	果樹、施設園芸、水稲	2.1 ha	若狭集落、甲ヶ崎集落
認就	田橋 孝浩	水稲、野菜、果樹	3.0 ha	水稲、野菜、果樹	6.0 ha	阿納尻集落
計	3 人		22.0 ha		42.1 ha	